

# 生成AI導入口ドマップ

AI導入は「技術プロジェクト」ではなく「働き方の再設計」です

付録:日常業務をAIパートナーにまるっと任せる本

一般社団法人中小企業AI活用協会

## 目的と期待値の整理

AI導入の目的を明確化

期待値のすり合わせ

経営層と現場の“温度差”をなくす

「どの業務をAIに任せるか」を粗く棚卸し

## セキュリティ・ルールの準備

機密情報を入れていいか、NG情報の線引きを決める

ログ管理、承認フロー、情報共有のガイドラインを用意

「下書きはAI、決定は人」の原則を共有

無料版・有料版、Team/Enterpriseなど最適な契約形態を選ぶ

## PoC(小規模導入)で効果を検証する

実際の業務データを用いて、AIの効果を“数値”で可視化

ベストプロンプトを作成し、社内で共有できる形に

“定着のボトルネック”を特定(使わない理由を探す)

小さな成功体験をつくり、次の部署への拡大準備

## RAG・ナレッジ活用

手順書・FAQ・議事録・報告書をAIに学習させる(RAG構築)

根拠つき回答が返ってくる“自社専用AI”を育てる

技術継承・品質管理・事故防止など“守り”にも展開

過去の知識が“攻めの提案”に転換される仕組みをつくる

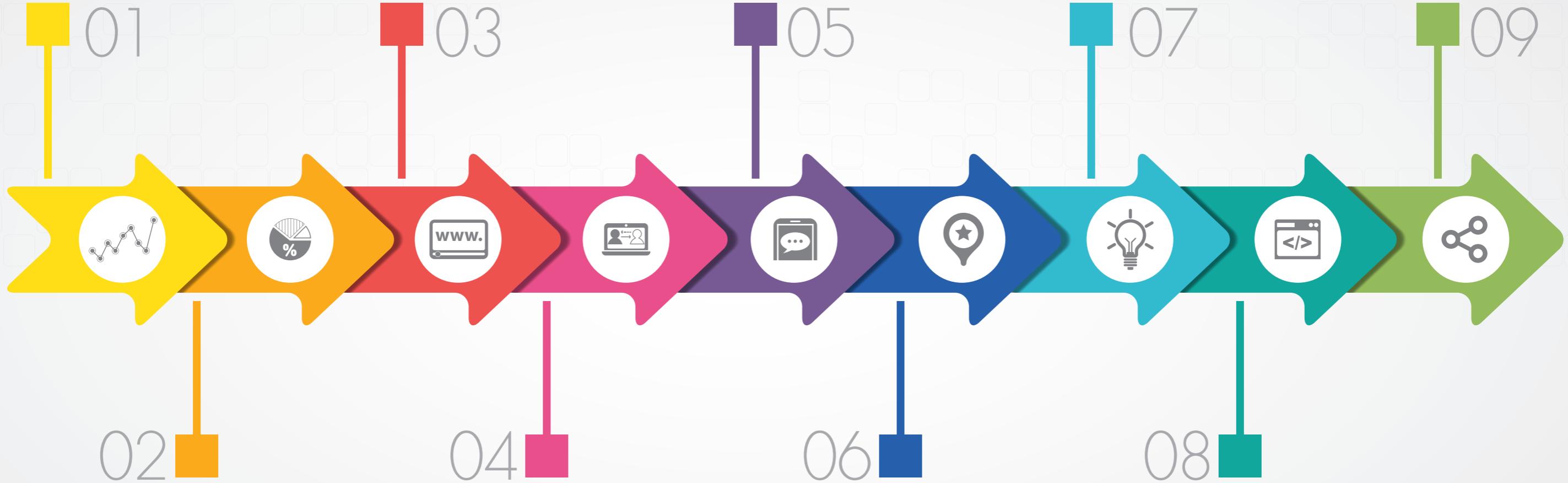
## 文化として定着させる(組織フェーズ)

「AIを使う会社」から「AIと考える会社」へシフト

AI利用ログを分析し、プロセス改善を継続

社内教育:AIとのコミュニケーション、AI活用の倫理

属人化しない“AI活用カルチャー”をつくる



## 現場の“ムダ”的可視化

議事録、メール、資料整形など“時間を食う反復作業”を洗い出す

属人化している業務／標準化できていない業務を抽出

「AIを入れたときの効果が大きい業務」を優先的に選定

小さく試せる業務を1~3個に絞る

## ツール選定

ChatGPT / Claude / Gemini / Copilot / Perplexityなどを比較

「文章強いAI」「分析が得意なAI」など特性を理解

RAG活用(社内文書と紐づける)をするか否かを見極める

使う人(ユーザー数・部署)を決めてPoC規模を設定

## 社内展開(チーム導入→全社導入へ)

操作研修よりも「使わない損失」を理解してもらう

プロンプト集・事例集・使い方ガイドを社内Wiki化

部署ごとに“AI担当(AIリーダー)”を設置

週次・月次で成功事例を共有し、横展開を加速

## AIエージェント化(自走するAIとの共創)

「目的を与える→AIが手順を分解→実行」までの流れを設計

部署横断タスクや調査業務をAIエージェントに任せる

AI同士の連携を整え、人は“判断と創造”に集中

AIを単なるツールから“自走するチームメイト”へ

小さく始めて、大きく広げる

目的→ルール→試行→文化化の順が失敗しない鉄則

最後に、人が担うのは「判断」「意味づけ」「対話」の部分